淀姫通信
よどひめつうしん
平成三十年七月五日
皇紀２６７８年
（西暦２０１８年）
第169号
発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

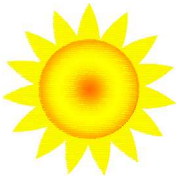
一気に蒸し暑くなりました

今年の夏も猛暑に注意

これを書いているのは七月五日です。

七月三日に長崎県に最接近した台風７号による大雨と風の被害が、社務所に出ております。雨漏り箇所があり、床板が濡れて柔らかくなってしまい、踏み抜きそうな状態になっています。気をつけながら歩いていますが、怖いですねえ。

さて、気象庁が発表する季節予報を見てみますと、今年の夏も平年より気温が高くなる確率が高いと予想されています。ニュースでも各地の猛暑を報じていますし、熱中症によるとみられる救急搬送が増えているというデータもあります。今年の夏も、暑さには気をつけなければなりません。



神社うんちく帖

今回は連載している「神さま紹介」はお休みして、夏にぴったりの「御霊信仰」を。

◆御霊信仰（ごりょうしんこう）

日本には奈良時代の昔から「災難によって死んだ者、現世に恨みを抱きながら死んだ者の霊が祟る」という信仰があります。

これを「御霊信仰」といいます。

霊魂と肉体が一つになっている状態が「生」であり、「死」とはその結びつきが失われることであると考える「霊肉一致」の信仰は、農耕時代が始まるはるか以前から広く世界中でみられ、日本でもその信仰が古くから存在したと思われます。

御霊信仰の根底には、霊魂と肉体が一致して安定していた「生」という状態が、突然訪れた「死」によって肉体が損なわれ、霊魂がその居場所を失ってしまう状態に陥ってしまうという観念があります。

いきなり居場所を失った霊魂は「死霊」となり、生者に対して怪異をもたらす「物の怪」として現れたり、また現世に強い恨みをもった死霊は「怨霊」になり、様々な災いごとや祟りをもたらすとも考えられました。

◆御霊会（ごりょうえ）

特に奈良時代の末頃から平安時代初期においては、度重なる政変により、皇族や貴族、豪族に至るまで、非業の死を遂げた人が続出しました。それらの人々の霊魂は激しい恨みをもつ恐ろしい怨霊となり、その怨霊の祟りが、当時起きていた天変地異や疫病の流行などの大きな災厄を招いたと考えられました。

そのため、祟りをもたらす霊を慰めて鎮めるための祭祀が平安時代の初め頃から行われるようになります。それが「御霊会」と呼ばれる御霊鎮めの祭りの始まりです。

◆都を遷すほどの祟り

ちなみに、桓武天皇が京都に都を遷す平安京遷都を行ったのは、奈良時代に大きな権力を持ち、政治に強い影響力を及ぼした仏教が招いた混乱を平定し、体制を刷新するためでした。しかし、それとは別に、**桓武天皇は弟である早良親王の祟りを避けるためにも遷都を行ったともいわれています。**

これは、平安京より前に遷都されるはずだった「長岡京」の造営に関わる人物の暗殺に関与したとされた早良親王が、無実を訴えるために食を絶ち、島流しにされる途中で怒りと絶望の中で死を迎えてしまったことにより、怨霊として様々な災厄をもたらしたためと言われています。